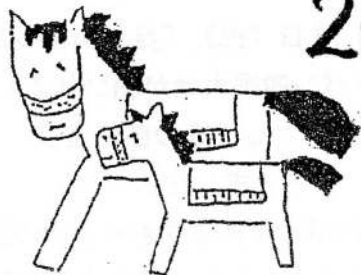


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ぽっくりぽっくりと。

20年 9月 NO.166



〒 760-0044

香川県高松市御坊町2-2

高松保育園内 地域子育て支援センター

TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857

<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～ 9月のプログラム～お気軽にどうぞ～

9月 6日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。
9月 6日	土	木工教室 14:00～16:00	材料・工具もありますので、 オリジナル作品を作ってみませんか。
9月 17日	水	香川みずぶさんの会 14:00～16:00	孫とのつきあい方について実技も まじえて学びます。どなたでもどうぞ。
9月 24日	水	健康・育児相談 10:30～11:30	小児科園医師にゆっくり 相談できます。
9月 27日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方、子育て体験に おいで下さい。
9月 27日	土	リフレッシュ講座 14:00～15:30	簡単なエアロビクスで体を動かして みましょう。(託児、予約要)

園庭開放 (14:00～15:00)

9月 8日 (月) 「わはは」より参加

出前保育 (11:00～12:00)

9月 9日 (火) 子育て“ほっと”ステーション

もこもこ (上之町 TEL:868-2251)

育児相談 (月～土) 9:00～18:00

しつけや子育てについての悩み、

保育園生活、入園・見学について

の相談もどうぞ。

高慢ちきな駒鳥が、
日ぐれにまた来てたまげたは、
やせつぼちの木、その梢、
黄金の木の実が光ってた。

(まるい、十五夜お月さま。)

金子みすゞ童謡全集より

(誰がきいてた、
誰かしら、
きいてお空へ告げに行た。)

高慢ちきな駒鳥は、
よその小枝で啼いていた。
「あかい実もない、花もない、
やせつぼちさん、お前には、
森の女王は呼べまいよ。」

森の隅っこの木が云うた。
「きれいな小さい駒鳥さん、
わたしの枝でも、おあそびな。」

やせつぼちの木



「こころを育む総合フォーラム」について～そのⅠ～

「こころを育む総合フォーラム」が20年8月19日(火)、「見つめようあなたの家庭・豊かなこころを育む場ですか?」をテーマに全国キャラバン四国大会が開かれました。山折哲雄さん(宗教学家)、遠山敦子さん(元文部科学大臣)、植田昌史さん(虹の部屋室長)、小柳晴生さん(放送大学客員教授)の講演やパネルディスカッションがありました。

参加者約500人の中の1人として参加しましたが、今回はフォーラムの設立や提言、フォーラムメンバーについてご紹介します。来月は～そのⅡ～として四国大会の内容についてお知らせします。



☆「こころを育む総合フォーラム」設立について (<http://www.kokoro-forum.jp/>)

平成17年4月18日に現代社会における「こころを育む」環境づくりに取り組むため、広く意味ある提言を行っていききたいという趣旨で設立されました。

経済界、学界をはじめ、民間における英知を結集するために、遠山敦子松下教育研究財団理事長(元文部科学大臣)の呼びかけにより、16名のメンバーが原則として月に一度早朝に開かれるブレイクファスト・ミーティングに集い、討議を続けていくことにしました。民間の立場から、これからの日本人がよりよく生きるために、メンバー自身も含め1人1人がどうあったらよいのか、どう行動したらいいのかを問うものでもあります。

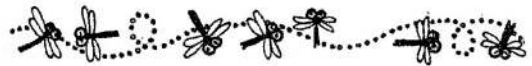
平成18年12月までに18回討議をし、広く一般の方々への問いかけのためのシンポジウムも2回開催されました。今年から全国キャラバンがスタートし、そのトップを切って四国大会が高松で8月19日に開かれ、24日は北見市で北海道大会が開催されます。

☆「こころを育む総合フォーラム」メンバー(平成19年1月 現在)

(氏名)	(現職)
安西祐一郎	慶應義塾 塾長
石井幹子	(株)石井幹子デザイン事務所 主宰
葛西敬之	東海旅客鉄道(株) 会長
金澤一郎	国立精神・神経センター 総長
佐々木毅	学習院大学 教授
滝鼻卓雄	読売新聞東京本社 社長
張富士夫	トヨタ自動車(株) 会長
遠山敦子	松下教育研究財団 理事長
永井多恵子	日本放送協会 副会長
中村邦夫	松下電器産業(株) 会長
中村桂子	JT生命誌研究館 館長
野依良治	理化学研究所 理事長
木田和子	お茶の水女子大学 名誉教授
三村明夫	新日本製鐵(株) 社長
山折哲雄	国際日本文化研究センター 名誉教授
鷺田清一	大阪大学 副学長



(50音順、敬称略)



提言

1. 「殺すなかれ、盗むなかれ、偽るなかれ」—今日ではあまりいわれなくなった言葉です。この言葉は知られておりますように、時代、民族、宗教を超えて人としてもちつづけるべき規範として語られてきました。しかし残念ながら人類の歴史は、この黄金律がつねに裏切られつづけてきたことを同時に教えています。人間に課せられたつらいジレンマであります。そのことを今日、われわれはどのようにわが身に引き寄せて考えたらいいのか、どのように噛みしめたらよいか、という問題であります。早急には結論の出ない永遠のテーマかもしれませんが、「こころを育む」という課題を考えていく上では、やはり最重要の道標として掲げておくべきことではないでしょうか。
2. 人間が人間らしさをとりもどすためのごく普通の生活を大切にし、これを習慣化していくということです。日常茶飯事という言葉がありますが、食事の摂り方から身の廻りの整理、整頓まで心をくばり、労働と休息と慰安をめぐる生活上のリズムを回復する、ということであります。物質的に恵まれた社会はわれわれの貴重な成果、社会的遺産として大事にしなければならないと思います。しかしこれからは同時にシンプルで、自然なライフスタイルを維持することが「心の作法」づくりにはさらに必要になってくるのではないのでしょうか。最近の標語をかりていいますと、「食育」の奨励や、「早寝早起き朝ご飯」運動などがそれにあたるでしょう。「小さな親切」運動なども人間が人間らしさをとりもどすための、もっともシンプルで、しかも根本的な生活態度ではないかと思うのです。
3. 上の日常茶飯のライフスタイルが定まるとき、社会や他人とのつき合い方がさらに広がりを見せ、深まっていくのではないのでしょうか。家族や友人たちとのかかわりの大切さが意識されるようになり、愛と信頼の関係が生まれてくるはずです。自然に親しみ、自然から学ぶ楽しさが全身にみちあふれてくるのではありませんか。どのようなものであれ^{いのち}生命を大切にし、他者を傷つけてはならないという覚悟が養われるでしょう。公共のものを大切にし、人のため世のためすこしでも自分を役立てようとする気持も芽生えてくると思うのです。

そして、そのようにしてわが身をふり返るとき、長い歴史のなかで培われてきた日本人の「こころ」の姿や価値観がよみがえってくるはずです。勤勉、質素、「足る

を知る」などの言葉に示されている考え方がそれでありますが、同時にこの日本列島が育んできた美意識や自然観、死生観、そして人間相互を結びつける社会性までが新鮮な息吹をわれわれにとどけてくれるようになるのではないのでしょうか。

以上、人間に課せられてきた規範、ライフスタイル、そして生きるための知恵（価値観）、という3点にしぼってこの「提言」の骨子をまとめてみたのでありますが、じつはその討議の過程からまとめの段階にかけてわれわれの念頭から去らなかった考え方の指針のようなものが2つありました。



指針

指針1、このたび「こころを育む総合フォーラム」を立ち上げましたのは、それが何よりもわれわれ自身の内心にむかって問いかける試みだったということです。このようなことはまずわれわれ自身の問題として考え、そして実践していかなければそもそもやるべきではない、というのがメンバー全員の一致した気持でした。それがあってはじめて、子どもたちとのあいだに希望の通路を開くことができる、—そういうわれわれの呼びかけの試みであり姿勢であります。

指針2、この「提言」は基本的には、若い世代へのメッセージとして発想されたものです。しかし本当のところをいいますと、むしろ大人の社会にむかって呼びかけるべき事柄ではないのか、というのがわれわれの率直な思いでもありました。今日における子どもたちの問題は、本質的にはわれわれ大人の問題ではないのかと考えつづけてきたからです。大人社会の価値観が揺らぐとき、子ども社会の乱れが発生する。子どもたちの運命がもしも悲劇的であるとするならば、それは大人社会の状況が悲劇の淵に沈みかけているからではないか、そういう反省にもとづいてこの「フォーラム」の会合を重ねてきたのであります。

以上がこの「提言」の骨子であります。それにしても、今日における大人社会の元気のなさ、自信喪失のありさまはどうしたことでしょう。抛るべき価値観とモラルの道標を見失い、まさに混迷の度を深めているというほかはありません。とするならば、このような状態から脱却するため、われわれはあらためて歴史に学び、世界の諸変化をも見定めつつ総合的な視点に立ち、自己再建の方途を探るべきときにきているのではないのでしょうか。

